

第214回（令和6年5月26日施行）

基礎簿記会計

第1問〈帳簿記入についての出題〉

記帳の対象なる取引（帳簿に記入すべき出来事）についての理解を確認するため、簿記上の取引の判断を問うている。

1. 顧客に販売するために保有している商品を廃棄した際の判断を確認している。
2. 商品の注文に伴い、あらかじめ商品代金の一部を現金で支払った際の判断について確認している。
3. 事務用コピー機（備品）の購入契約を締結した際の判断について確認している。
4. 配送用トラック（車両運搬具）の売却見積価格が判明した際の判断について確認している。

第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. は、商店会に加盟している会員から会費を現金で回収した取引である。発生した会費収入（収益）と受け取った現金（資産）の記帳を問うている。
2. は、商店会の銀行預金口座（普通預金口座）から現金を引き出した取引である。引き出された普通預金（資産）と引き出されたことによって増加した現金（資産）の記帳を問うている。
3. は、商店会の事務所で発生した電気料金を支払った取引である。発生した水道光熱費（費用）と支払った現金（資産）の記帳を問うている。
4. は、商品売買業者（家具販売業）が商品（机とイス）を代金の一部を現金で支払い、残額を後払いの条件で購入した取引である。購入した商品（資産）、減少した現金（資産）および生じた債務である買掛金（負債）の記帳を問うている。
5. は、商品売買業者（家具販売業）が業務で移動した際に電車賃を支払った取引である。発生した交通費（費用）と支払った現金（資産）の記帳を問うている。
6. は、商品売買業者（家具販売業）が商品（ソファ）を現金販売した取引である。販売により減少した商品（資産）、受け取った現金（資産）および発生した商品販売益（収益）の記帳を問うている。
7. 商品売買業者（家具販売業）が前月に購入した商品の掛け代金を支払った取引である。支払によって減少した買掛金（負債）と現金（資産）の記帳を問うている。
8. 商品売買業者（家具販売業）が自社で使用する車両運搬具を購入した取引である。増加した車両運搬具（資産）とその支払いにより減少した普通預金（資産）の記帳を問うている。

第3問<日記帳から元帳への転記に関する出題>

帳簿の基本的な形は、日々の取引を記録する日記帳と、管理すべき単位（勘定）の記入簿（元帳）の2つである。本問では、日記帳としての仕訳帳に記入されている取引を、勘定科目がまとめられている元帳へ転記するという手続きを問うている。適切な勘定科目の勘定口座の借方または貸方に、日付、相手勘定科目、金額を適切に記入できるかを試している。本問における元帳は、いわゆる T フォームの形式である。

第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

会計期間の収支計算を示すことによって会計報告する場合には、前期繰越金から出発し、期中の活動による変動を経て、次期繰越金に至る過程を示す会計報告書を作成する。

本問では、一会計期間の会計記録をまとめた試算表からマンション管理組合の会計報告書（報告式）を作成できるかを問うている。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、収入項目と支出項目の配列は試算表の配列によることに注意する。

第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期末の会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。

本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から損益計算書と貸借対照表を作成できるかを問うている。貸借対照表と損益計算書に計上する勘定科目は、解答用紙にあらかじめ示されているので、元帳残高を正しく記入し、貸借対照表と損益計算書それぞれにおいて当期純利益が一致する関係を確認できるかを問うている。